

### 希望の根拠 (留津 1:1-5)

まわりの状況や自分自身を見たときに、希望が見えないときがあります。そのようなとき、多くの人は突破口を求めてもがきますが、うまくいかないので、意欲や気力をなくしてうつ病になったり、極端な行動をとることもあります。信者の私たちは、そのようなときにどうしたらよいのでしょうか。ルツ記は、そのような絶望の危機の状況からはじまる物語です。士師記の末期のころのひとつの家族の話です。個人の信仰は崩れ、霊的状态是最悪で、神様に見放され、のろわれたかと思えない状況になりました。しかし、神様は休まずに働いておられ、神様はご自分の契約を成し遂げられているということがルツ記のテーマです。一般的な考えでは理解できない福音のメッセージを受けて、いままで聞いてきた脳の中にある世の中の知識が砕かれ、本当のいやしの祝福が与えられるように祈りましょう。



まず、**イエスを信じる信者には、どんな状況でも絶望はありません。**絶望する必要はなく、絶望してはいけないというメッセージをしっかりと受けましょう。いまの日本の状況を見ると、クリスチャンは人口の 0.1%にも満たず、10 年後には 50%の教会が閉鎖する危機がある霊的状态です。どんなに経済が成長して、すぐれた人間性を盾に、ヒューマニズム、偶像文化を誇って、守ろうとしても、現実には限界を迎えています。高齢化社会、少子化問題、教育の限界、家庭崩壊、青少年問題の深刻化、子どもたちも依存症問題があります。社会の限界の中で、個人は霊的に苦しめられ、精神的、肉体的な苦しみはどうしようもありません。人間関係も苦しく、未来は不安で、運命の束縛の中で一歩も出られない状況だというのが素直な告白ではないでしょうか。その中で、人間がもう少しがんばればどうにかなると努力しています。経済や生活が裕福になれば、開発が進み発展すればよくなるだろうと状況に希望を置いています。しかし、歴史が証明しているように、それは偽りでしかありません。それでも、それが偽りであることを見ることもできないので、偽りの希望や幸せを求めてだまされて生きていくしかない

のです。そのような世の中であっても、信者である私たちに、絶望はありません。どんなに危機的な問題があっても、神様は休まずに、いまも働いておられるからです。(ヨハネ 5:17) **神様が働いておられ、イエス様も働いておられ、契約を真実にまっとうされるので、希望があるのです。**神様は全能の力をもって神様の働きをされ、どんなに絶望の状況であっても、それをも用いて、すべての予想を裏切って、契約を成し遂げられます。それを邪魔することができるものは存在しません。それが、ルツ記のテーマであり、聖書全体のテーマです。そのことを「**神様の主権**」と言います。

神様を裏入り、原罪の罪を犯して悪魔に犯った瞬間から死んだ者になりました(エペソ 2:1)。その状況で神様は、女の子孫がへびの頭を踏み砕いていのちを与える(創 3:15)という約束をくださいました。ノアの時代には、神様が人間を造ったことを後悔されるほど罪惡に満ちたのですが(創 6:6)、それでも神様はなににも邪魔されることなく、ご自分の契約をまっとうされました。神はいらないと本格的に神様に敵対して塔を築いたのですが(創 11:4)、神様はそれにも関わらず、アブラハムを召して、女の子孫がへびの頭を踏み砕くという契約をまっとうされました。アブラハムは祝福されたのに、イスラエルの民はエジプトの神々をおがみ、400 年奴隷の絶望状態に陥ったのですが、神様はモーセ、ヨシュアという人物を召して、ご自分の契約を守られました。約束の地に入ったあとも、イスラエルは裏切ることが専門のように、エジプトの偶像に加えてカナン族の神々をおがみました。そこで、ルツという異邦人の女性を用い、神様はご自分の契約をあきらめずに真実にまっとうされました。そのあとも、繰り返し、神様はおられないのではないかと考える絶望の状況になり、最後は 400 年間暗黒時代で、まったく希望はなくなりました。しかし、そのような真っ暗な絶望状況の中にキリストであるイエスが来られたのです。神様は創世記 3:15 のへびの頭を踏み砕く女の子孫の約束をまっとうされました。そのキリストがイエス様です。

イスラエルはイエス様を拒否して十字架につけました。そこで乞食のような 120 人しかいない絶望状態になった人々に、「あなたがたは知らなくてもよい」と聖霊が臨まれる約束をください(使 1:8)、その契約どおり聖霊が注がれ、地の果てにまで証人とされました。教会が迫害され、ステパノはクリスチャンだという理由だけで石で打たれて死に、教会存続の危機を迎えました。しかし、散らされた人が行く先々でイエスがあかしされ、聖霊が臨み、いのちある者となりました。そして、ローマのものすごい迫害、奴隷のような状態であったのですが、そこでも神様がご自分の契約をまっとうされ、ローマは AD313 年にキリスト教を国教としたのでした。このように、神様はどんな状況でも、ご自分の契約をまっとうされます。

クリスチャンが落ち込んだりつまずくのは、状況に目をとめるからです。植民地であることに目を向けるのではなく、聖霊が臨むときイエスの証人となるという契約がまっとうされることに目を向けましょう。神様はご自分の約束は、絶対に邪魔されることなく、まっとうされることを確認しましょう。ですから、契約を握ってゆれずに祈ることができると、勝利することができます。それが悪魔が

#### ルツ記 1:1-5 希望の根拠

なるほど/多くの人々が危機と絶望の状況に遭うと、突破口を求めもがいたり、あるいは崩れ落ちたりするけど、信者にはどのような絶望の状況に遭っても絶望はないし絶望しない。それは、その時も休まず邪魔されず真実に御自分の契約をまっとうされる神様を信じているからである。ならば/条件と状況、環境を希望の根拠にする古い枠を捨て、希望の根拠を契約の神様、その契約を絶対まっとうされる神様に移そう。どんな状況でも契約を堅く握り、揺れずに祈る信者になるう。

#### インマヌエル教会聖日メッセージ祈り文 (2019年10月27日)

1 部礼拝 : 福音だけが解決できる病気 (マコ 5:1-8)

なぜいのちをかけて神様を信じてキリストを伝えるべきなのかを悟って、重要な使命を契約として握るようにしてください感謝します。神様が与えた神の子どもという身分を握って、サタンを落とす穴を崩して、すべての答えを味わいますように。神の子どもになった身分に従って、受けた権威を持って、サタンを壊す権威を味わいますように。行く場所ごとの暗やみの勢力が逃げて、神の国が臨む神の子どもに与えた力を味わいますように。深い祈り、深いみことば、深い呼吸を味わいますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

2 部礼拝 : 237 万国の不治の病を癒す教会 (マコ 5:25-34)

家庭、次世代、教会を崩して、すべての問題の原因になるサタン、わざわざ、地獄の背景を解決したキリストの契約を握るようにしてください感謝します。旧約で預言した福音、神様のみことばが成就される中に私がいますように。キリストに出会った瞬間、神の子どもに運命が変わったことを知って味わいますように。キリストによってサタンがもたらした落とし穴、枠、ワナの三つののろいから完全に出てきたことを味わいますように。正確な福音を伝えて生かしますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

恐れる人、絶対弟子です。希望の根拠を、自分、家族、条件、状況、環境に置くのは古い枠です。**必ず契約を成し遂げられる神様に希望の根拠を置きましょう。**

変わらない契約を握る習慣を身につけましょう。それが定刻の祈りです。契約はイエスはキリストということ、イエスを信じる私たちはすべての問題は終わって、完璧なあふれる祝福を受けているということです。私は幸せな伝道者だということが契約です。現場がどうであっても、契約を握りましょう。世界に一千万弟子、237か国に福音を伝え、47 都道府県に弟子が立てられ、国内宣教師が派遣され、崩れる教会の中でいのちの教会が立てられること、これを契約として握りましょう。いまの現場で神様がわざをなさるといことを契約として握りましょう。いのちの運動が行われます。契約をまっとうされる神様に希望を託し、成し遂げられることを夢みる祈りの時間を持ちましょう。変わらない契約をまっとうされる神様にポイントを移すようにしましょう。

(<http://jremnant.com> に音声と動画が出ています)